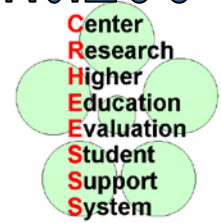


週刊センターニュース No.299



第299号(2010年3月1日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第259回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 3月11日(木) 18:00~19:30

※開催曜日・時間が通常と異なりますので、ご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館 2階大会議室

企画者: 青野透(大学教育開発・支援センター教授)

報告者: 林透(北陸先端科学技術大学院大学、大学教育開発・支援センター客員研究員)

日水 栄(学生部学務課)

テーマ: 「大学院の教育力向上を主とした教職員職能開発(FD・SD)について」

詳細: 金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との教育研究活動支援事業として今年度採択された「教職員の職能開発(FD・SD)に関する実証的研究」の成果報告について、3月18日、19日に京都大学で開催される第16回大学教育研究フォーラムにおいて発表する予定である。今回は、その成果報告に先立ち、学内において発表を行い、参加者とともに議論したい。

○●○ 高等教育の国際化戦略について② ○●○

センターニュース292号(2010年1月12日発行)に続き、アジア太平洋地域(中国・韓国を含め)における高等教育の国際化戦略の内容をさらにみていくと、

・外国教育・研究機関誘致の推進、教育課程の共同運営の活性化

海外の優秀な大学や研究所の国内(大学)誘致と運営に力を入れ始めている国が増えている。先鋭的に行っている代表国はシンガポールで、MITやジョン・ホプキンス大学、ミュンヘン工科大学など約20の実力大学が同国に進出している。韓国でも、アメリカ航空宇宙工学研究所を大学内に誘致した事例などが見うけられる。シンガポールの場合は世界の教育ハブを目指して行くという国家戦略も関係しているが、財政・施設面の大幅な支援や柔軟な規則運用など政府の協力が大きな役割を果たしているように、外国大学等の誘致のためには、関連部署・自治体の行財政支援が必須で、大学側からの関係者に対する積極的な働きかけも必要であろう。

海外大学の国内進出は比較的不発な日本においては、教育課程の共同運営(ジョイント・デGREE、ダブル・デGREE授与レベルの緊密な形態は一部の大学に任せ、短期的・モジュール的な実用的科目間の単位互換などにとどめ)の活性化は、有力な方法の一つと考えられる。これには、外国大学誘致より、プログラム導入・運営の方が準備期間・費用面で節約できるのみならず、国内大学の変化を触発する効果も得られる。

・海外インターンシップ支援、職業教育研修

(学士課程) 学生の基礎的能力の強化も含めて、各国における進出外国企業や海外所在企業などへの就職を促進する方策の一つとして、海外インターンシップ支援は有効なものとみられている。教育を輸出産業として政府がバックアップしているオーストラリアでも、インドや中国等からの留学生を中心に(長期・短期)職業教育・研修を行っている。さらに、修士課程および博士課程学生に対しても海外でのインターンシップ支援を行うなどして、専門能力向上と併せ、世界先端産業分野での人的ネットワーク構築(この部分についても、中韓やシンガポールはかなり積極的である)につなげていくことも人材育成の面で重要と考えられる。

・大学情報提供システムの構築

上記の推進国と比較してみると、国内の高等教育制度・機関に関する情報提供は質量ともに、日本

はまだまだ不足している状況にある。広く留学生市場を開拓するに際して、またすでに緊密な協力関係にある提携大学に対しても、より充実した留学案内・情報検索システムを整備し、情報発信を高めていく必要がある。

これまでの項目を推進するには教職員いずれも相当の負担がかかってくるのが推測できる。提携先(大学・国)の基準を満たす授業を行うことや課題提示、成績評価などの教育運営の向上、あるいは大学全体の管理体制やガバナンスの役割など、個々の大学の力が試されている。

【参考文献】

船守美穂「連載 世界の有力大学の国際化の動向」『リクルートカレッジマネジメント』157号、42-47頁、2009年

「特集 国際競争時代の大学」『IDE 現代の高等教育』No.507(2009年1月)

韓国教育人的資源部・財政経済部他『高等教育の国際化戦略 2007年度推進戦略(韓国語)』(2007.2.28)
(文責 評価システム研究部門 渡辺達雄)

○●○ 金沢大学理工学域主催 第2回FDシンポジウムのお知らせ ○●○

以下の通り、理工学域のFDシンポジウムが開催されます。基調講演の大塚先生は我が国の高等教育のFD拠点として知られる京都大学高等教育研究開発推進センターのご所属で、今回は大学院教育の課題について講演されます。本学においても理工ばかりでなく人間社会、医薬など、すべての大学院研究科において教育課程編成方針の明確化やコースワークとしての教育プログラムの開発は共通する今後の課題であり、ご講演ではそのような課題に取り組む上での有益なご提言をいただくことが期待され、当センターも注目しております。全学からの教員の参加が望まれるところです。

日時：平成22年3月15日(月) 13時00分～

場所：自然科学大講義棟 レクチャーホール・AV講義室

プログラム：

1. 開会 13:00～13:10 挨拶 中尾慎太郎(理工学域長)
2. 特別講演 13:10～14:10「大学院教育に今求められているものは何か？」(仮)
大塚雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
3. 全体討論 14:20～15:55
4. 閉会 15:55～16:00 山崎光悦(教育方法改善委員会委員長)

○●○ 大学コンソーシアム石川移転記念戦略的大学連携支援事業

公開シンポジウム開催のご案内 ○●○

テーマ：「生まれ変わる大学コンソーシアム石川とその将来像」

日時：平成22年3月5日(金) 午後1時～午後5時

会場：北国新聞赤羽ホーム1階交流ホール(金沢市南町2番1号)

プログラム

13:05～14:00 基調講演「戦略GPの意図するところー拠点と関連する事例」

伊藤健二(慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究准教授)

14:10～15:30 報告

報告1「戦略GPによって変わる新しい大学コンソーシアム石川の全体像」

古畑徹(大学コンソーシアム石川教務学生専門部会長・金沢大学教授)

報告2「新・大学コンソーシアム石川とアクティブラーニング」

山田政寛(金沢大学大学教育開発・支援センター准教授)

報告3「新・大学コンソーシアム石川の情報化ーe教育支援センターの設立と取組」

水元明法、山田智子(e教育支援センター)、森祥寛(金沢大学総合メディア基盤センター助教)

報告4「地域の課題解決を目指したフィールド教育プログラム」の成果

金沢大学放送ゼミ・金沢美術工芸大学・石川工業高等専門学校建築景観論ゼミの事例報告

15:45～17:00 パネル・ディスカッション